

日、新得く落合間、電信電話線となる。五三年六月二八日、電話交換事務を廃止した、電話交換取り扱い当時は、定員も一六名で

郵便物調

区分	年度		昭和三五年	四〇	四五	五〇	五五	五九	六〇
	配引	達受							
郵便	配引	達受	一、四六四 一、六五四	三、〇八四 二、六八四	一、八三四 二、二八四	九七四 一、三二四	七三四 一、一九四	四三四 一、〇五四	四七四 八五四
小包	配引	達受	一、〇一八 四、三〇三	一、〇五三 二、九二〇	七四七 八一六	四九四 六二九	四五一 六〇五	三七〇 五二六	四五七 六六三
電報	配引	達受	一、五一一 一、九一三	二、七六六 三、一三五	一、二六〇 一、二〇〇	五四六 六三一	二一六 二七八	三二 三三〇	三 三九九

金山郵便局 明治四〇年（一九〇七）三月三十一日、字金山市街地

一三番地に移転、同時に郵便集配、為替、貯金事務を開始した。

四五年（一九一〇）四月二六日、字金山市街地三二番地へ移転。大正一二年（一九二三）二月二二日、字金山基線七号の新局舎へ移転す。一五年（一九二六）一月一日、公衆電話並びに電話事務を開始。昭和四年一月二六日、右左府線開通により公衆電話中継を開始する。九年二月二一日、三度び局舎を移転する。

昭和三十一年五月九日、金山く日高間、専用自動車郵便線路開設。三六年一月二六日、村内即時通話実施。三九年八月二三日、字金山九三三番地へ局舎新築移転す。三九年八月二九日、電

あったが、現在は八名となった。五九年二月、従来の郵便鉄道輸送方式から、自動車輸送へと変更になった。

資料／「落合郵便局資料」

話交換機増設二台となる。四二年二月七日、郵便用バイク四台配備す。四五年七月二四日、電話交換半自動化集外集中となる。



旧金山郵便局

電 報	小 包	郵 便	区 分	年 度
配 引	配 引	配 引		
達 受	達 受	達 受		
一、九七九 一、九六五	四、三三八 九四九	一八一、四一八 二〇七、六六九	昭和三五年	
四、三八二 四、六三四	一、五六三 七、〇七三	二四八、一一八 一八六、二〇八	四 〇	
一、八八八 一、八九六	五、八二〇 八三九	二〇九、二三三 二七〇、三三八	四 五	
六二二 九九六	二、六五八 五〇三	一五七、七二八 二二七、七八四	五 〇	
一四四 四四八	二、九一八 四九〇	一三七、一六六 二二〇、五〇四	五 五	
三〇一 三七	三、四七八 四三〇	一一二、五八五 一六八、〇〇〇	五 九	
二二四 二五	三、九六五 六六六	一五五、二〇八 九七、七九二	六 〇	

郵便物調

月二四日、簡易保険用端末機設置、オンライン化する。同年一一



金山郵便局

四九年九月二九日、日曜日の郵便配達業務休止。五一年八月一八日、電話交換業務廃止、電話自動改式なる。電報送受信上位局集中となる。五三年一二月二五日、集配用軽自動四輪車配備。五八年五月二五日、為替貯金業務窓口端末機設置、オンライン化する。同年一一

月一日、鉄道郵便線路受渡便廃止、旭川～金山間、金山～日高間、金山～落合間の自動車郵便線路開設される。五九年三月一日、配達の一度化を実施する。

歴代郵便局長

資料／「金山郵便局資料」

歴代	氏 名	就 職 年 月	歴代	氏 名	就 職 年 月
初代	武田 孝一	明治四〇年 三月	六代	鈴木 徳吾	昭和二十四年一月
二代	下田 亀蔵	〃 四三年 四月	七代	渡辺 信	〃 三〇年 四月
三代	川島 房吉	大正一二年一〇月	八代	阿部 巖	〃 四六年 六月
四代	岡本初次郎	昭和九年 一月	九代	和田 満	〃 五八年 六月
五代	井上 尚光	〃 二〇年 一月	一〇代	渡辺 勇	〃 六二年 六月

資料／「金山郵便局資料」